

ステロイド点眼とは？その①

この夏は、ロンドンオリンピックのTV観戦で寝不足だった方も多いでしょうか？超一流のアスリート達の頑張りからは沢山の勇気をもらえましたよね！

「凄いぞ！ニッポン！！」

では、今回のガンカニュースのテーマを解説します。眼科で処方される目薬には様々な種類がありますが、シュートを決めたりホームランを打ったり…「スタープレイヤー」と呼べるのは



代表的ステロイド点眼①
0.1%フルメトロン

- ① ばい菌を退治し、消毒的な意味合いを持つ「抗生物質」
- ② ドライアイ患者さんや目のケガの患者さんに処方する「人工的な涙」に準ずるもの
- ③ 眼圧を下げる「緑内障治療薬」
- ④ 消炎や鎮痛の効果を期待して処方する「抗炎症作用薬」

といったところです。(その他、白内障の進行予防点眼や眼精疲労に対するビタミン剤などは常に試合には出るレギュラー選手ですが、野球の外野手とかサッカーのディフェンダーのように地味なポジションという感じですね(笑))。今回のフジタガンカニュースでは④(の中でも特にステロイド点眼に絞って)についての解説をしてみたいと思います。

まず最初に「炎症ってなんだろう？」です。炎症とは…常套手段ですがウィキペディアにお願いしてみましょう。

炎症(えんしょう)とは、生体が何らかの有害な刺激を受けた時に免疫応答が働き、それによって生体に出現した症候である。さらにその免疫応答の結果によって生じる病理学上の変化を示す病理学用語でもある。発赤、熱感、腫脹、疼痛を「炎症の4徴候」という。また、機能障害を含めて「炎症の5徴候」ともいう。(ウィキペディアより抜粋)

「……(^_ ^)」

何のことやらさっぱりわかりませんねー(笑)。ウィキペディアは便利な物ですが、細かい検証がなされていない情報も多いので、有効に活用できないことも多いようです。どうやら何かの専門書の一文をコピペ(=コピーアンドペースト)した感が否(いな)めませんよね(真偽は不明ですが…)。ポイントは発赤(赤くなる)・熱感(熱くなる)・腫脹(腫れ上がる)・疼痛(痛い!)という所で…

大まかに解釈すると「赤くなる・痛くなる・腫れる」のが炎症という事ですね。そして、それは困った事なので…これを治療するのが④ということになります。僕の個人的な意見として、目はカラダ全体の中でも特にこの炎症反応を嫌う「嫌炎症臓器」のようので、日常的に④を扱う頻度も多いですし、その種類も豊富、その使い方で眼科の医者の腕が試される(☹なんて言ったら言い過ぎかもしれませんが)のかもしれない!…とっており、いずれにせよ眼科医にとって④は非常に重要なアイテムな訳です。④には大まかに分けて二つの種類があります。A)副腎皮質ステロイドホルモン剤(以下、ステロイドと短縮)とB)非ステロイド剤の二種類です。B)は非ステロイド性抗炎症薬(ひすてろいどせいこうえんしょうやく=Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs)と呼ばれ、あまりにも名前が長いので、業界用語としては英単語の頭文



代表的ステロイド点眼②
0.1%リソロン

字を取って通称NSAIDs(エヌセツズ・エヌセイズ)とか日本名の最初の三文字をとって「ヒステ」とか呼ばれています。薬局で購入できるロキソニンという頭痛薬なんかは代表格ですね。また、NSAIDsはたくさん使すぎると腎臓を悪くすることが知られていて、それが無闇に増えると透析患者さんが増えて医療費が莫大になってしまうのでNSAIDsの使い過ぎには注意が必要と厚生省は考えているようです。整形外科などで痛み止めをもらう場合に「この痛み止めはたくさん飲みすぎるとダメですよ」などの説明がある場合はこんなケースです。痛みが強くてお困りなのはわかりますが、限度を超えると最終的にご本人が苦しむ事になってしまいます…「何事も適度に」ということですね。で、今回の主題は実はB)ではなくてA)なんです(笑)。

ステロイド点眼の特長は…①「効果が強い⇒よく効いて、症状が緩和される」という点です。しかし、原則として原因疾患の根本治療ではありません。あくまでも「その場をしのいでいる」に過ぎませんので、よく効くだけで「治しているのではない」という点をよく理解しなければなりません。つまり、アレルギー反応に代表されるような慢性疾患では治療を中止すると再度症状が悪化することも多いのです。ただし、慢性疾患というものはたいてい症状が強い時期と症状が弱い(もしくは消失する)時期があるため、症状が悪いタイミングに限って上手にステロイドを利用すると非常に都合が良いという事になります。(スギの花粉症の方ならお判りだと思いますが、シーズン中は薬が手放せませんが時期が来れば症状は消失します。しかしまた翌年の春が来れば悩みの種となるのですよね…。)

ステロイドの二つ目の特長として…②「注意しなければならない副作用が多い。」という点が挙げられます。ステロイド剤の飲み薬や点滴での治療の場合にはカラダ全体に対しての副作用を気にしなければなりません。点眼の場合には目への副作用を注意するだけで十分です。一般的に、目薬に含まれる量のステロイドで体への副作用が出ることは無いと考えて良いと思いますのでご安心下さい。簡単に説明すると

- 1)眼圧が上昇して緑内障になってしまう可能性がある事
- 2)ばい菌に対しての抵抗力が弱まって感染症を起こす可能性がある事

の二点です。

まずは1)について解説します。

ステロイドを点眼すると必ず眼圧が上昇する訳ではありません。むしろ眼圧上昇する事のほうが少ないのです。ただし、眼圧が上昇しても自覚症状は無いので、定期的に眼圧検査をしておかないと眼圧上昇に気づかず、いつの間にか緑内障を発症してしまうかもしれません。そして現在の所、血圧検査などと異なり眼圧検査をご自宅で行えるような機器は開発されていないため、眼圧検査をするためには眼科を受診していただく必要があります。面倒ですが仕方ありません…。誌面が足りなくなりましたが、続きは次号をお待ちください!



携帯サイト用QRコード

<http://www.fujita-ganka.com>

今月のお知らせ

10月19日(金)午後は学校健診のため、10月26日(金)午後と10月27日(土)は臨床眼科学会出席のため休診となります。ご迷惑をお掛けしますが、宜しく願い申し上げます(_)。

FUJITA-EYE-CLINIC

藤田眼科
 エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)

F-Vision

☎ **042**
(645)
0575
 ☎ **042**
(642)
2911